

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-171875

(P2002-171875A)

(43) 公開日 平成14年6月18日 (2002. 6. 18)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード (参考)

A 0 1 K 87/06
87/08

A 0 1 K 87/06
87/00

B 2 B 0 1 9
6 2 0 E

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-375782 (P2000-375782)

(22) 出願日 平成12年12月11日 (2000. 12. 11)

(71) 出願人 000002439

株式会社シマノ

大阪府堺市老松町 3 丁 77 番地

(72) 発明者 岩淵 正和

大阪府富田林市藤沢台 6-24-21

(74) 代理人 100094145

弁理士 小野 由己男 (外 1 名)

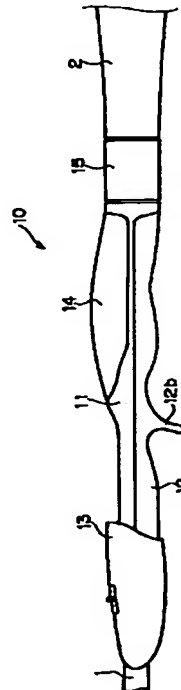
Fターム (参考) 2B019 AA06 CB03 CB10

(54) 【発明の名称】 リールシート

(57) 【要約】

【課題】 釣人が良好な状態でリール操作が可能であると共に、耐久性操作性にも優れたリールシートを提供する。

【解決手段】 この釣竿のリールシート 10 は、竿体 1 の所定位置の上側周面に固定され、リールを載置するための載置面が上面側に形成された略半割筒状の上本体部 11 と、竿体 1 の所定位置の下側周面に上本体部 11 と共に配置され、下面側に突出するトリガー 12 b を有し、軸方向に移動可能であり且つ軸方向の任意の箇所に固定可能な略半割筒状の下本体部 12 とを備えている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】釣竿の竿体に設けられリールを脱着自在に装着するためのリールシートであって、前記竿体の所定位置の上側周面に固定され、リールを載置するための載置面が上面側に形成された略半割筒状の上本体部と、前記竿体の所定位置の下側周面に前記上本体部と共に配置され、下面側に突出するトリガーを有し、軸方向に移動可能であり且つ軸方向の任意の箇所に固定可能な略半割筒状の下本体部とを備えたリールシート。

【請求項2】前記下本体部の竿元側端部を覆うように配置された内周面に雄ねじ部を有するナット部をさらに備え、前記下本体部は竿元側端部に前記雄ねじ部に螺合する雄ねじ部を有する、請求項1に記載のリールシート。

【請求項3】前記上本体部と前記下本体部とが組み合わされて全体として略円筒型を形成している、請求項1または2に記載のリールシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、釣竿の竿体外周面に設けられリールを取付可能なリールシートに関する。

【0002】

【従来の技術】釣竿には、スピニングリール、両軸受けリール等の釣用リールを取り付けるためのリールシートが設けられている。例えば、従来のリールシートでナット式と呼ばれるリールシートは、釣用リールの脚部の一端を係止する固定フードと雄ネジ部とを有する本体部と、移動シート部と、ナット部とを有している。この移動シート部はリールの脚部の他端を係止する移動フード部を有し、シート本体に対して相対移動可能である。ナット部は雄ネジ部に螺合して移動シート部を移動させる。

【0003】このようなリールシートでは、リールの脚部の一端を本体部の固定フードに係止した状態でナット部を回転させて、移動シート部を固定フードに接近させて、移動シート部の移動フードでリールの脚部の他端を係止する。このように固定フード及び移動フードでリールの脚部を挟持してリールを釣竿に固定する。

【0004】また、リールシートのリールの脚部を載せる側と反対側の周面には、トリガーと呼ばれる指を引っかけておくための突起が設けられていることがある。釣人はリールシート付近をリールシートに取り付けたリールと共に把持しつつリール操作を行う。この際に、このトリガーに指を引っかけて安定した状態でリール操作を行うのである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】このようなリールシートのトリガーは、リールシートの本体部の一部が突出した状態で形成されている。このリールシートの本体部は

竿体周面に固定されているため、当然にトリガーも竿体に固定されていることになる。このため、釣人がトリガーに指を引っかけてリールシート付近を把持してリール操作を行う場合、釣人の手の大きさや把持する感覚にトリガーの位置が完全に適合しない場合もあった。このようにトリガー位置が釣人に適合しなければ、良好なリール操作を行いがたい。

【0006】そこで、トリガーのみをリールシートと別途形成して、トリガーを任意の箇所に釣人が配置することも考えられる。しかし、このようにトリガーのみをリールシートから独立して別途形成するのでは、大きな力が指からかかるトリガーの強度に不安もあり、またトリガーの交換作業も煩雑である。さらに、リールシートの意匠性も良好でない。

【0007】本発明の課題は、釣人が良好な状態でリール操作が可能であると共に、耐久性操作性にも優れたリールシートを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】発明1にかかるリールシートは、釣竿の竿体に設けられリールを脱着自在に装着するためのリールシートであって、竿体の所定位置の上側周面に固定され、リールを載置するための載置面が上面側に形成された略半割筒状の上本体部と、竿体の所定位置の下側周面に上本体部と共に配置され、下面側に突出するトリガーを有し、軸方向に移動可能であり且つ軸方向の任意の箇所に固定可能な略半割筒状の下本体部とを備えている。

【0009】このリールシートでは、竿体周面に固定されているリールシートの上側半周部分を形成する上本体部の載置面にリールを載置して固定する。この上本体部自体は竿体周面に固定されているため、リール取付時の安定性に欠けるものではない。一方、リールシートの下側半周部分を形成する下本体部は竿体に沿って軸方向に移動である。釣人は自らの手の大きさや感覚に合わせてこの下本体部を移動させて、下本体部に形成されているトリガーの位置を変更できる。このトリガーはリールシートの下本体部の一部として形成されており、耐久性にも優れ、意匠性も向上する。

【0010】発明2にかかるリールシートは、発明1のリールシートであって、下本体部の竿元側端部を覆うように配置された内周面に雄ねじ部を有するナット部をさらに備え、下本体部は竿元側端部に雄ねじ部に螺合する雄ねじ部を有する。

【0011】このリールシートでは、ナット部を周方向に回転させることで、ナット部に螺合している下本体部が軸方向に移動すると共に任意の箇所で固定される。このようにナット部を操作することで容易に下本体部を軸方向に移動させることが可能である。

【0012】発明3にかかるリールシートは、発明1または2のリールシートであって、上本体部と下本体部と

が組み合わされて全体として略円筒型を形成している。このリールシートでは、上本体部と下本体部とで略円筒型を形成しており、外形上通常のリールシートと相違することなく、自然な形状でトリガーの位置を変更可能である。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施形態について、図面を参照しつつ説明する。本発明の一実施形態を採用した釣竿は、竿体1と、竿体1の竿元側周面に配置されるグリップ2と、グリップ2の穂先側の竿体1周面に配置されるリールシート10と、竿体1の周面に軸方向に間隔を隔てて配置された複数の釣糸ガイド3とを有している。

【0014】竿体1は、繊維強化樹脂から構成される先細り筒状体であり、一般に、複数のパーツを振出式または並継式に組み合せて構成されている。リールシート10は、釣用リール（図示せず）の脚部を係止して釣用リールを竿体1に装着するための部分である。図2～7に詳しく示すように、このリールシート10は、竿体1の上側周面に固定され、リールを載置するための載置面が上側面に形成された略半割筒状の上本体部11と、竿体1の下側周面に上本体部11と共に配置される略半割筒状の下本体部12と、上本体部11と下本体部12の穂先側を覆うように配置されるフロントカバー13と、上本体部11と下本体部12の竿元側を覆うように配置されるナット部15とを有している。

【0015】上本体部11は、軸方向に伸びる貫通孔を有し（図5・6参照）ここに竿体1が貫通した状態で竿体1の周面に固定される合成樹脂または金属からなる変形半割筒状部材である。外形上リールシート10の上側半分を構成することになる。この上本体部11の上側面の所定の位置には平坦な載置面が形成されており、その竿元側には穂先側に開口する固定フード11aが形成されている。固定フード11aの竿元側には弾性体やその他の合成樹脂からなる部材14が貼り付けられ固定されている。また、上本体部11の竿元側端部分は小径部分となっており、この外周にナット部15が配置される。さらに、図7に詳しく示すように、上本体部11の穂先側部分における下面側部分には軸方向に並んで一定の範囲に複数の突起11bが形成されている。この突起11bはそれぞれ竿元側が大径・穂先側が小径になるように傾斜がつけられている。

【0016】下本体部12は、軸方向に伸びる外形上略半割筒状部材である。上本体10と同様に合成樹脂等によって形成される。外形上は上本体部10と一体性をかもしだすように連続して略円筒型を形成するようにデザインされており、さらにそのデザインに合わせて種々の湾曲が施されている（図2参照）。また、図5及び図6等に示すように、径方向断面視においてはその中央付近に上方に向かってコの字型のフック部分を有し、この部

分が上本体部11に組み合わされ、上本体部11に対して周方向に回転自在で軸方向には移動可能になっている。さらに、下本体部12の竿元側端部はやや小径化した雄ねじ部12aとなっており、その外周にナット部15が配置される（図8参照）。なお、下本体部12の軸方向長さ中央付近よりやや穂先側には下方に突出するトリガー12bが一体的に形成されている（図2参照）。

【0017】図3、4及び図7に詳しく示すように、フロントカバー13は略円筒型部材であり、内部を軸方向に竿体1が貫通すると共に、竿元側の開口から内部に上本体部11と下本体部12とを収納した状態で配置されている。そして、このフロントカバー11は、カバー本体21と、このカバー本体21内に配置されるロック部22と、ロック部22内に配置されるコイルバネ23とから構成されている。

【0018】カバー本体21は、軸方向に貫通する貫通孔を有すると共に軸方向中央付近に上面側から開口して貫通孔に連続する空間100を有する部材である。貫通孔には軸方向に竿体1及び上本体部11が挿通される。また、貫通孔の竿元側端部上側は上本体部11の載置面に位置し、ここが移動フードとして載置面に載置されるリールの脚部を覆うようになっている。一方、貫通孔の竿元側端部下側は竿体1との間に比較的大きな空隙が形成されており、後述のように、ここに竿元側から下本体部12が軸方向に移動しつつ出入りするようになっている（図9参照）。

【0019】ロック部22は、図4及び図7に示すように、軸方向に貫通する貫通孔を有する箱形部材である。竿体1及び上本体部11がこの貫通孔を貫通した状態でロック部22はカバー本体21の空間100内に配置される。その下面側に余剰の空隙があるように空間100は設定されており、空間100内において上下方向にロック部22は移動可能である。

【0020】一方、ロック部22内には上本体部11との間にコイルバネ23が配置されている。このコイルバネ23がロック部22を相対的に上方に付勢し、ロック部22は空間100上端周縁のカバー本体21のフランジで抑えられて上方へ飛び出すのを抑えられている。一方、ロック部22の貫通孔下側内周面には、軸方向に並んで複数の突起22aが形成されている。この突起22aはそれぞれ竿元側が大径・穂先側が小径になるように傾斜がつけられており、上本体部11の穂先側部分における下面側部分の突起11bと噛み合うようになっている。

【0021】図8に詳しく示すように、ナット部15は、上本体部11・下本体部12の竿元側端部を内部に収納するように配置される筒状部材である。穂先側部分は径部分・竿元側部分は小径部分となっており、この大径部分は外部に露出し、小径部分はグリップ2の穂先側に覆われている。そして、竿体1及び上本体部11・

下本体部12の外周を周方向に回転自在となっている。また、小径部分の内周面にはねじ山が形成されて雄ねじ部となっており、下本体部12の雄ねじ部12aが螺合している。

【0022】この釣竿では、竿体1に固定されているリールシート10の上本体部11の載置面にリールの脚部を載置し、その一端を固定フード11aに挿入し、フロントカバー13を竿元側に移動させてカバー本体21の竿元側端部でリールの脚部の他端を覆い、固定フード11aとカバー本体21とでリールの脚部を挟持して固定する(図9(a)参照)。このようにフロントカバー13を竿元側に移動させる場合は、ロック部22の複数の突起22aと上本体部11の穂先側部分における下面側部分の突起11bとはその傾斜方向から竿元側には容易にスライドする。そして、コイルバネ23の付勢によって噛み合っている突起11b、22aはフロントカバー13の穂先側へのスライドを規制している。

【0023】一方、リールを取り外す場合には、図9(b)に示すように、フロントカバー13のロック部22をコイルバネ23の押し込み、突起11b、22aの噛み合いを解除する。これにより、フロントカバー13は穂先側に移動でき、リールを取り外すことができる。

【0024】また、リールを取り付けて釣りをを行う場合には、釣人はトリガー12bに指をかけながらリールシート10及びリールを把持して釣りをを行う。ここで、上本体部11自体は竿体1周囲に固定されているため、リール取付時の安定性に欠けるものではない。そして、釣人が手の大きさや感覚に従ってトリガー12bの位置を調整したい場合には、図10に示すように、ナット部15を周方向に回転させることで、ナット部15に螺合している下本体部12が軸方向に移動すると共に任意の箇所固定される。このトリガー12bはリールシートの下本体部の一部として形成されており、耐久性にも優れ

るものである。また、上本体部11と下本体部12とが組み合わされて略円筒型を形成しており、外形上通常のリールシートと相違することもない。

【0025】[他の実施形態]

(a) 固定フード、フロントカバーの軸方向位置を穂先側と竿元側とで入れ替えてもよい。

【0026】

【発明の効果】本発明に係るリールシートは、釣人が良好な状態でリール操作が可能であると共に、耐久性操作性にも優れる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態を採用した釣竿の全体図。

【図2】図1のリールシート付近の拡大図。

【図3】図2の軸方向断面図。

【図4】図3のIV-IV断面図。

【図5】図3のV-V断面図。

【図6】図3のVI-VI断面図。

【図7】フロントカバーの断面図。

【図8】ナット部付近の断面図。

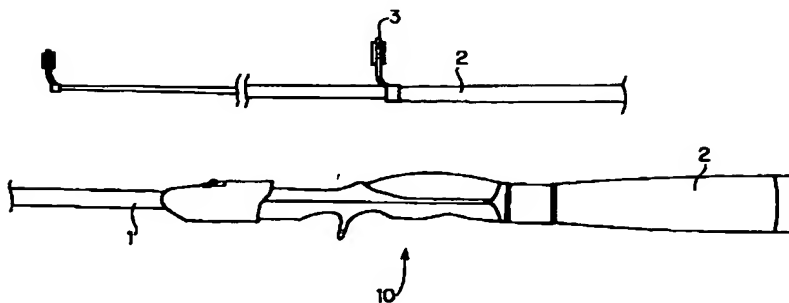
【図9】フロントカバーの移動を示した図。

【図10】下本体部の移動を示した図。

【符号の説明】

- 1 竿体
- 10 リールシート
- 11 上本体部
- 12 下本体部
- 12b トリガー
- 13 フロントカバー
- 15 ナット部
- 21 カバー本体
- 22 ロック部
- 23 コイルバネ

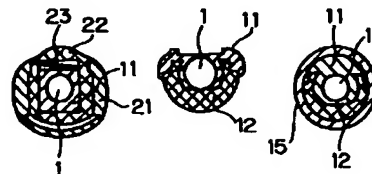
【図1】



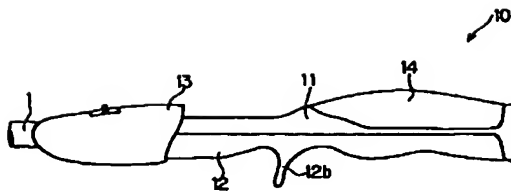
【図4】

【図5】

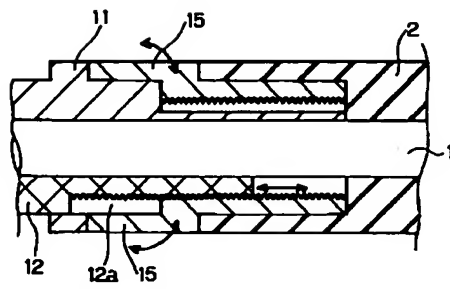
【図6】



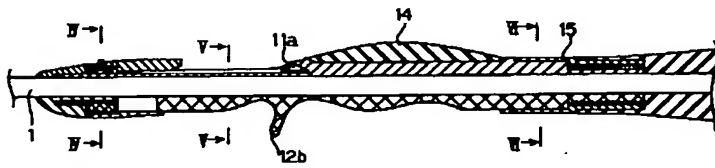
【図2】



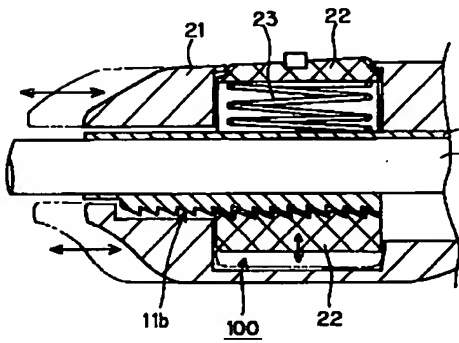
【図8】



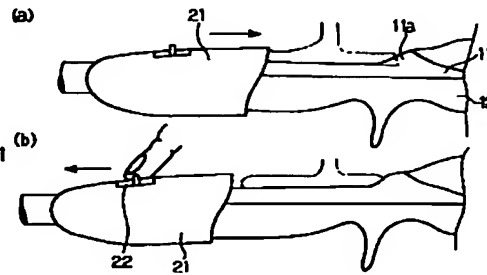
【図3】



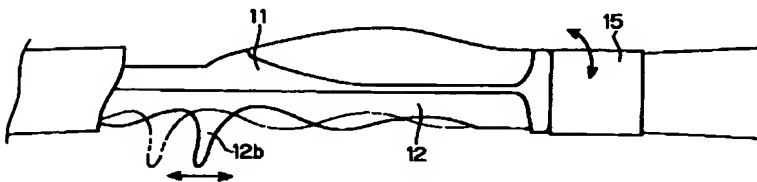
【図7】



【図9】



【図10】



PAT-NO: JP02002171875A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002171875 A
TITLE: REEL SEAT
PUBN-DATE: June 18, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
IWABUCHI, MASAKAZU	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SHIMANO INC	N/A

APPL-NO: JP2000375782

APPL-DATE: December 11, 2000

INT-CL (IPC): A01K087/06, A01K087/08

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a reel seat enabling the operation of the reel by an angler in good state and having excellent durability and handleability.

SOLUTION: The reel seat 10 of a fishing rod is fixed on the upper circumference of a prescribed position of the rod 1. The face for holding the reel is provided with an upper body part 11 having nearly half-split cylindrical form formed on the upper face and a lower body part 12 having nearly half-split cylindrical form, placed on the lower circumferential face of the prescribed position of the rod 1 together with the

upper body part 11,
having a trigger 12b protruding from the lower face,
movable in the axial
direction and fixable at an arbitrary position in the axial
direction.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☒ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.